



# Newsletter

## 日本在宅ケア学会

2024年3月発行

# No.17

一般社団法人日本在宅ケア学会  
事務局  
〒100-0003  
東京都千代田区一ツ橋1-1-1  
パレスサイドビル  
TEL：03-6267-4550  
FAX：03-6267-4555

### 令和5年度日本在宅ケア学会 委員会活動紹介および活動報告

#### 日本在宅ケア学会第28回学術集会報告

小西かおる（大阪大学大学院医学系研究科）

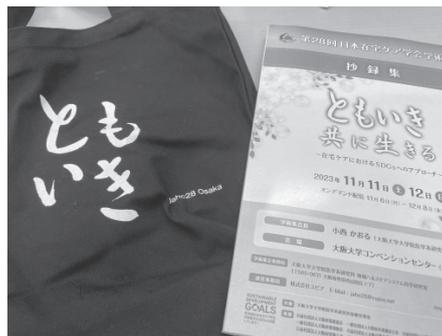
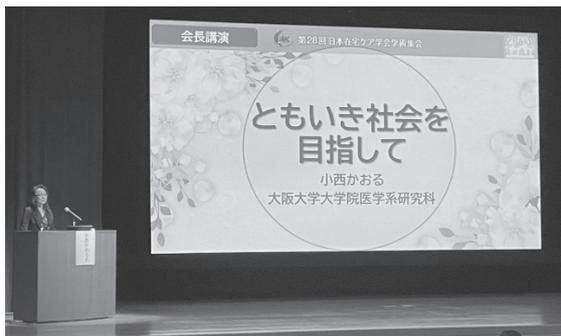
第28回日本在宅ケア学会学術集会は、2023年11月11日(土)・12日(日)に大阪大学コンベンションセンターにおいて4年ぶりの対面での会場開催、11月6日(月)～12月8日(金)にWeb開催され、成功裡に終了いたしました。1,000人に迫る参加登録をいただき、約半数が会場に足を運んでいただきました。会場は同窓会のような雰囲気と新たな交流が生まれ、活発な討論により実り豊かな学術集会となりました。皆様のご参加、ご協力に心からお礼申し上げます。

第28回学術集会では、メインテーマを「ともいき（共に生きる）～在宅ケアにおけるSDGs

へのアプローチ～」とし、在宅ケアに関わる多専門分野の研究者および実践者のみならず、在宅ケアの主役である当事者とご家族にもご参加いただけるよう、交流を主体とした幅広い分野のプログラムを企画致しました。

「ともいき社会を目指して」の会長講演、「在宅におけるスピリチュアルケア」「ケアからつくる社会」の2つの基調講演、「医療的ケア児（者）ケア」「お寺の可能性」「事業継続計画（BCP）」「ともいき」をテーマとした4つの公開シンポジウム、「セイフティ・ヘルスプロモーション」「ロボットの可能性」「哲学カフェ」「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）」「拡大・代替コミュニケーション（AAC）」「元気回復行動プラン（WRAP）」「ポストコロナ」





をテーマとした7つの公開ワークショップ、「デジタルがつなぐ在宅ケアイノベーション」のパネルディスカッション、「呼吸」「栄養」に関する2つのランチオンセミナー、論文賞記念講演(2講演)、17社による企業展示、一般演題(口演)68演題、拡大編集委員会が会場で開催されました。特に、会場のみで開催された公開ワークショップと一般演題(口演)は、どの会場も満席で活発な議論が展開されていました。

Webプログラムにおいては、「AIロボット」「注文をまちがえるレストラン」「多文化社会」「呼吸ケア」「フレイル予防」「BCP」「障害者権利条約」「地域防災」「WRAP」をテーマとした9つの特別講演、「質的研究法」「量的研究法」「混合研究法」の3つの教育講演、「ガイドライン政策委員会」「生涯教育委員会」「学会活動推進委員会」の3つの委員会企画、一般演題(示説)71演題に加え、会場開催の会長講演、2つの基調講演、4つの公開シンポジウム、パネルディスカッションが配信されました。会場開催の録画配信で臨場感を味わうとともに、会場のみで開催された公開ワークショップやランチオンセミナーの内容に関連する特別講演等のオンデマンド配信プログラムにより、会場参加の方もWeb参加の方も学びを深めていただける機会になったのではないかと思います。

メインテーマの「ともいき」は、「共生」を訓読みしたもので、命のつながりや人の縁を大切に、共に支え合い助け合い生きるという思いを込めています。そして、在宅ケアにおける

SDGsを考え、「誰一人取り残さない (leave no one behind)」を目標に、ともいき社会における持続可能な在宅ケアのあり方を議論してほしいと考えこのテーマを選びました。本学術集會でのご縁が、新たな発想やつながり、共同研究や連携に発展し、在宅ケアの向上に寄与できることを心より願っております。

大学キャンパス内にコンベンションセンターがあることは、運営側にとっては理解者と協力者の力を借りやすかったのですが、陸の孤島と呼ばれるほど週末の交通の利便性が悪く、キャンパスが広大すぎて移動するにも時間がかかり、建物も古くバリアフリー環境が確保されておらず、参加者の皆様には大変不便な思いをさせて申し訳ありませんでした。歩いたり、階段を上ったりする機会が増え、運動になったと前向きにとらえていただければ幸いです。

最後に、展示、広告としてご支援を頂きました多数の企業の方々、後援して下さった団体様、2年近くにわたり準備にご尽力下さった運営委員や学会役員の先生方、会期中ボランティアスタッフとしてご活躍頂きました方々に重ねて厚くお礼申し上げます。

第29回学術集會は、2024年8月24日(土)・25日(日)に鎌倉芸術館(〒247-0056神奈川県鎌倉市大船6-1-2)で開催されます。多くの方にご参加いただけるようお願いいたします。会場で皆様と熱い議論や楽しい交流ができることを楽しみにしております。

## 政策提言検討委員会

委員長：高砂 裕子（南区医師会訪問看護ステーション）

近年、注目されている高度実践看護師（APN: Advanced Practice Nurse）とは、看護系大学院の教育を受け、個人、家族、集団及び地域に対して、ケア（Care）とキュア（Cure）の融合による高度な知識、技術を駆使して、疾病の予防および治療・療養過程の全般を管理・実践できる者をいいます。APNには、CNS（専門看護師）とNP（診療看護師）があります。在宅ケアの現場でも高度実践看護師として活動しています。

一方、診療報酬では、訪問看護制度の専門管理加算として、令和4年度改定で新設されたもので、専門の研修を受けた看護師が、専門的な管理を含む訪問看護を実施する場合として評価されました。対象としている専門の研修を受けた看護師とは、①緩和ケア、褥瘡ケアまたは人工肛門ケア及び人工膀胱ケアに係る専門の研修を受けた看護師、②特定行為研修を修了した看護師（気管カニューレの交換、胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換、膀胱ろうカテーテルの交換、褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去、創傷に対する陰圧閉鎖療法、持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整、脱水症状に対する輸液による補正）のことです。

政策提言検討委員会は、今年度この高度実践看護師等がどのような役割を担い、在宅ケアの現場で実践しているか、専門の研修を受けた看護師が存在する訪問看護事業所の組織・運営体制や利用者にとどのような影響を及ぼしているかを明らかにする検討を行っています。在宅ケアの対象者は、重度化、多様化、複雑化しており、訪問看護への期待により、訪問看護利用者数は、増加しています。利用者の在宅療養継続を支援するため、専門性の高い看護の提供が求められ

ています。

また、第29回在宅ケア学会学術集会では、高度実践看護師の人材育成や高度実践看護師を雇用している訪問看護ステーションの管理者などから活動状況を伺い、在宅ケアにどのような可能性をもたらすかを多職種、教育機関、在宅ケア現場の看護職などの参加者の皆様とで意見交換を行う機会としたいと考えています。会員の皆様もご参加ください。

## スマートフォンアプリケーションを用いた個別避難計画とBCPへの応用

中井 寿雄（高知県立大学）

2021年の災害対策基本法の改正により個別避難計画の策定が市町村の努力義務となった。在宅療養者は同じ疾患でも年齢や合併症等により状態が異なり、個別性に配慮した災害対策が必要である。我々は、当事者（あるいは家族）がスマートフォン（スマホ）に自分の属性やヘルスケアデータを入力しておき、緊急時や災害時に自己判断で情報開示できるスマホアプリを開発している（K-DiPS Solo）。入力項目は、本人、支援者情報、ADL、医療情報等で、入力後のPDF出力により個別避難計画として活用できる（図1）。各アプリストアより無料で使用が可能である。さらに、2023年7月に、K-DiPS Soloの情報の一部を、クラウドを介して支援者と共有できるウェブアプリをリリースした（K-DiPS BCP）（図2）。被災した医療機



図1 K-DiPS Soloのスタンドアロン運用のフロー

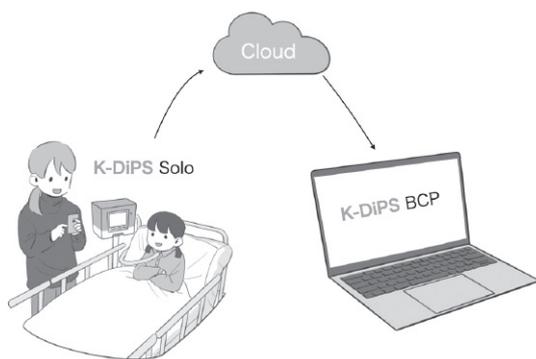


図2 K-DiPS Solo と K-DiPS BCP の接続イメージ

器ユーザーや慢性疾患のある者は、一般避難所には避難しなかったことが国内外で報告されている。わが国でも、在宅療養者の居場所が分からず安否確認が遅れたケースが報告された。本アプリは、安否確認リストの作成、ウェブアプリからの安否確認、療養者からのSOS受信機能を実装しており、実行性の高い事業継続計画に応用が可能である。

本アプリについては、K-DiPS HP (<https://k-dips.jp/>) もしくは、筆者までご連絡ください (研究室: 088-847-8576 Mail: nakai\_hisao@cc.u-kochi.ac.jp)。

### 各地域における活動

舞谷 邦代 (金城大学・やまの保健室)

金城大学看護学部では地域貢献活動を目的とした「やまの保健室」を立ち上げ、市内の山麓地域に暮らす住民への健康支援を行っています。高齢化率が40%を超える過疎地域において、学校の保健室のように健康について気軽に相談できる場、学習できる場づくりを目指し、地域包括支援センターや公民館と協働し活動しています。

主な活動内容は、山麓地域に点在する高齢者サロンへの出前講座、文化祭など地区行事での健康測定、オレンジカフェでの健康相談、地域の小中学生や高齢者を大学に招き看護体験を行う通称“おでかけハッスル”などです。活動にはボランティ



高齢者サロンでの出前講座



おでかけハッスル (大学での看護体験)

アの学生も参加します。若い学生に会えることを楽しみにしている高齢者は多く、普段、高齢者との関わりが少ない学生にとっても世代間交流ができる貴重な機会となっています。教員は10名前後のメンバーがいますが、活動によって全員が参加する時もあれば、1人の時もあります。できる時にできる人ができることをするをモットーに、山麓の人たちとつながり合っていくことを大切にしています。

活動を始めて7年、コロナ禍での活動自粛を経て、活動を継続していくことの大切さを実感しています。今後は、高齢者一人ひとりの声を聴き、小さな安心を届けられるような個別支援にも力を入れたいと考えています。「やまの保健室」に集う人たちが元気になり、笑顔になれる素敵な場をこれからも創っていきたいと考えています。

## 令和5年度日本在宅ケア学会論文賞受賞に寄せて

— 優秀論文賞受賞者、奨励論文賞受賞者より —

### ◆令和5年度日本在宅ケア学会優秀論文賞



小橋 拓真

北海道文教大学医療保健科学部看護学科

#### ■受賞論文 原著

地域に暮らす高齢者の転倒予防の取り組み  
— 簡易に取り組める床マーキングトレーニングの効果 —

小橋 拓真 (北海道文教大学医療保健科学部看護学科)

この度は、第28回日本在宅ケア学会優秀論文賞を賜り、大変光栄に存じます。本研究において、ご指導いただきました正野知基先生、上農正剛先生をはじめ、ご協力頂きました民生委員や自治会の皆様に、心より感謝申し上げます。また、審査委員長の小西かおる先生より、論述や統計処理などについて高評もいただき、研究者として半人前の私にとっては、何よりの栄誉であり、今後の研究活動への励みとなりました。重ねて感謝申し上げます。

本研究は、住み慣れた地域で高齢者が、元気に過ごすための方策の1つとして転倒予防に着目し、簡易に取り組める床マーキングトレーニングを実施しました。このトレーニングは、自宅の日常的な動線上に3つの色分けした標的を踏み進めるという内容です。簡単な環境整備で実施できるので、地域で元気に暮らす高齢者への支えになります。また、本学術集会のテーマである「ともいき」にも共鳴する試みです。

今後は、マニュアル作成などを進め、地域のより多くの人がいつまでも生き生きと暮らすための一助となるよう、励んで参ります。この度の受賞や、記念講演でいただきました多くの賞賛やご助言をもとに、研究者として精進いたします。

### ◆令和5年度日本在宅ケア学会奨励論文賞



島村 敦子

東邦大学健康科学部

#### ■受賞論文 原著

熟練訪問看護師の眼球運動に基づく観察の特徴  
— 訪問看護熟練者、初心者、看護学生の眼球運動の比較 —

島村 敦子 (東邦大学健康科学部)  
諏訪さゆり (千葉大学大学院)  
兪 文偉 (千葉大学)  
松島 英介 (東京医科歯科大学)

このたびは令和5年度奨励論文賞を賜り、大変光栄に存じます。本研究にご協力いただきましたすべてのみなさま、ご指導いただきました査読者の先生方に心より感謝申し上げます。

本研究は、訪問看護熟練者の観察の特徴を訪問看護熟練者と訪問看護非熟練者（訪問看護初心者と看護学生）の眼球運動の比較に基づき明らかにしたものです。本研究から、訪問看護実践においても、眼球運動計測データの活用は、言語情報に基づく熟練者の実践だけではなく、言語で説明困難な感覚・知覚の発揮についても明らかにできる可能性があると考えられました。訪問看護には、底知れない魅力が詰まっていると思います。今後も、訪問看護師の優れた実践や専門性を明らかにすることから、在宅ケアの発展につながる研究に取り組んで参ります。

## 各種ご案内

### ニュースメール配信用 メールアドレス登録のお願い

本学会では、会員のみなさまへ迅速に情報提供を行うために、「ニュースメール」（不定期／年数回）を配信しております。未登録の方は会員専用サイトよりご登録いただくか、会員登録事項変更届のご提出をお願い申し上げます。

### 実践および研究助成金について

#### ■第11回実践・研究助成金募集結果■

〈2024年度助成者〉

◇「災害の少ない北関東地域の訪問看護師の減災意識と医療的ケアを必要とする在宅療養者に対する減災対策状況」

柏瀬 淳（群馬大学大学院保健学研究科）

※助成額：20万円

#### ■第12回実践および研究助成募集について■

募集期間：2024年10月1日～11月30日（予定）

応募資格：実践および研究代表者は、当学会員（入会手続きが完了している者）であり、該当年度の会費を振り込んだ者。

※詳細が決定次第、学会ホームページに掲載予定。

## 第 29 回日本在宅ケア学会学術集会のご案内

- **テーマ**：「望む場所で暮らす」をかなえるために：つくる・つなげる在宅ケア  
<https://jahc29.yupia.net/>
- **大会長**：永田智子（慶應義塾大学看護医療学部）
- **会 期**：2024年8月24日(土)・25日(日)
- **会 場**：鎌倉芸術館（神奈川県鎌倉市大船6-1-2）  
<https://kamakura-kpac.jp/map/>

### 学術集会の趣旨とそれに応じた多角的な企画

人口減少、少子高齢化が進行し、2040年に向けケアの担い手不足の深刻化が予想される一方、「住みたい場所」「暮らしたい場所」で暮らしたいという人々の希望はより顕著なものになっています。

その希望を叶えるためには、「暮らし続けられる場」「暮らしを支えるサポート」「持続可能なケアシステム」が必要であり、新たなモノや場やサービスの創造、サービスや職種間の連携、効果的なケア実践を行うためのエビデンス構築が求められています。併せて、災害により「望む場所で暮らす」ことが困難となった方々をどのように支援していくか、ということも喫緊の課題となっております。

このような背景を踏まえ、“「望む場所で暮らす」をかなえるために：つくる・つなげる在宅ケア”というテーマを設定しました。このテーマには、地域包括ケアシステムの実現に向け、新たな社会資源の開発と連携を更に促進する契機になればという思いを込めています。

居住環境や地域内の移動といった「住まい・住まい方」に焦点を当てた企画、様々な社会資源の創出や活用を促進することを目指した企画、地域を巻き込んだ医療福祉連携の強化や、在宅ケアにおけるデータ利活用・ケアの効果評価等、より効果的・効率的な在宅ケアの探究を目指す企画など、新しい視点・視野が得られる企画を諸々準備しております。

### 多様な参加形態と魅力的な会場設定

本学術集会においては、対面での一般演題発表や交流集会等により参加者間の活発な議論を促し、在宅ケアに関する学術的なトピックスや現場での新たな実践などを含め、「望む場所で暮らす」ことへの支援に関する新たな気づきが得られる機会とすることを目指しています。併せて、一部の企画のオンデマンド配信、および一般演題のポスターのオンライン公開も行いますので、現地に赴くことが難しい方もぜひ参加をご検討いただければと思います。

会場となる鎌倉市は歴史好きならずとも一度は訪れたい、そして一度訪れたら何度も続けて訪れたい、新旧の魅力あふれる街です。初日の特別講演では、古刹の僧侶の方にご登壇いただき、鎌倉時代に行われた傷病者へのケアの様相を紐解きますので、講演内で登場した地名を探しながら街歩きをしていただくのも一興かと存じます。いざ鎌倉！

多くの皆様のご参加を、心よりお待ちしております。